

よさのうみ福祉会 広報誌

きょうと福祉人材
育成認証制度



2019年
1月1日
No.107

福祉よさのうみ

〈発行〉社会福祉法人 よさのうみ福祉会 〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6 TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を! URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>



理事長 青木 一博

新年のよろこび

新しい年を迎え、福祉会関係者ならびに法人
広報誌読者の皆様の日頃のご理解、ご支援に心
から感謝とお礼を申し上げます。

2018年の障害福祉分野を俯瞰しますと、
旧優生保護法下での強制不妊手術問題、中央省
庁等での雇用率水増し(偽装問題)、生活保護費
の切り下げなど、障害のある人たちの尊厳と権
利を踏みにじる深刻な実態が明るみに出ました。

このような中、9月に『きょうとさかん第41回全
国大会』が京都で開催され、幅広い関係団体の協
力共同により、目標とした4千人を大きく上回
る5千5百人(ボランティア含む)を組織し、規
模・内容とも歴史に残る大会となりました。

10月には、与謝の海養護学校が創立50周年を
迎え、記念集会や記念誌が出版されました。養護
学校づくりの3つの基本理念が、運動の大切さ
と公的な責任のあり方を、半世紀を経て今日の
私たちに問いかけていることを改めて実感させ
られました。

法人内においては、一部に生じた不適切な利
用者支援をふまえ、その原因と課題を明確にし、
法人組織を挙げて改善に取り組んでいます。事
業面では、法人第2次3カ年計画初年度事業の
一つ「宮津新ホーム建設」に着工、3月末完成に
向けた工事が進んでいます。地域との連携では、
8月にNHKのEテレでリフレかやの里の利用
者を取りあげた番組が全国放送。11月には、リフ
レを含む与謝地域山村活性化協議会が農林水産
省の優良事例に選定され、福祉と地域と行政の
連携した取り組み内容が高く評価されました。

旧年中の成果と課題をふまえ、2019年を
新たな飛躍の年とすべく関係者一同全力を尽く
します。皆様方の益々のご健勝をお祈りします。

新春特別企画

『未来を担う若手
仕事へ』

ているんだから、すごい！

宮崎 僕は楽しいことは、いますっごい好きな利用者さんがいてめっちゃ寝起きが大好きです。癒されます。かわいって言ったたら何十歳も年上の男性に失礼なんです。

佐々木 誰だろう？

宮崎 ○○さんです。寝起きが素敵。モゴモゴ言いながら起きて来られる。ほんとたまにしゃべられるんですけどそれを聞いたときはとてもうれしい。

佐々木 今怒つとられません？よう怒つとられたね。

宮崎 怒っておられます。「○○さん！」「って近づいたら頭ばちって叩かれます。困ってることはあります。失禁のある方で、失禁してもずうつと笑っておられるんで、ぼくはいつでも許してあげるって言ってたんだけど、便秘の方のはずなのに僕の夜勤のときだけやけに便失禁が多い気がする・・・。

小巻 安心するんですかねえ。

平林 みなさん、愚痴は誰に言いま

すか？

小巻 よく愚痴るのはうちの主任と、仲が良い職員の○○さんかなあ。

佐々木 聞いてもらえる人がいるのはいいですね。

小巻 でも私は態度がかいから、「ほんとに悩んでるのかわからん」と言われることがあります。自分がどん底だった時に○○さんが「飲みに行くで！」と連れ出してくれていたおかげで、私は今ここにいます。○○さんありがとうございます！

地域とのつながり

小巻 宮崎さん、消防団に入ってるって聞いたけど？

宮崎 消防団に入ってます。

住むところを探した時にアパートより一戸建ての空き家のほうが安いし広いと聞いて入居して、近所に挨拶に行ったら「隣組に入らないとごみが出せない」と言われたんです。そこで区長さんのところに行く。そこで区長の練習中で「舞と囃子とどっちがいい？」と訊かれて、どっちも知らんから「笛」って言うたら、僕が思っていた笛と全然違ってた、単なる竹の棒やん、って。来て1か月もせんうちに、祭の練習にがつり(笑)。

それから消防団に入れと言われて、なんかいろんなところに参加させてもらうし、おごってもらうし、やんわり僕『いきいき』っていう入所

施設で変則勤務だしそんな行けないと思うんですけど言うんですけど、「いやお前は酒を飲みに来るだけではないから来い」って。

ソフトボールやったことないけどソフトボールに入ってるし。

佐々木 え？ソフトボールのチームに？

宮崎 はい、声上げてるだけです(笑)。「ナイスボール！」とかで、1打席だけ出してもらって三振して帰ってくる(笑)。

(一同爆笑)

平林 すごいな。誰よりも地域になじんでますね。地元民より地元に入り込んでる。

僕は伊根に住みたいんです。伊根の里も好きなんですけど地域性がすごい好きで。

伊根は地域のつながりの強いところで、送迎に行ったら舟屋の人たちと顔見知りになるんです。おばちゃんとか絶対声かけてくれて、「ゆるさ」がいいというか、よそのものでもすぐ受け入れてくれる。独特の街並みもすごい好きで、絶対いつか住んでやろうと思ってます。もともと伊根に地域貢献したいなと(笑)。

今丹後はどこも人口が減少していますけど、伊根はけっこう人気があつて、観光客も増えているんですよ。

小巻 伊根愛がすごいね。

仕事でこれからやってみよう

小巻 私は今の仕事の幅を広げたいです。リフレがしているおかず販売とかスーパールにおかずを置いていただくなどをしてみたいなと思います。弁当配達だけを仕事と思うんじゃないかって、もっと外部にアピールしたほうがいいかなと思います。あと、就労支援の仕事に本格的に取り組んでみたいです。今は「利用者の力をつける担当」なんですけど、これからは他事業所とか、外部の一般企業とかいろいろな所と連携して「一般就労を推し進める担当」がやってみたい！もちろんもつとたくさん勉強していかなくては、と思っています。



宮崎 ターンで来たことを生かして、ここに新

卒の方が来やすくなる研修をしたいです。この地域でしかできない米作りとか、機械りとかを体験しながら1〜2週間暮らしながらいろんな施設を回る研修。就職するといつてもインターンの場合には新しい仕事にも緊張するし、それにプラス新しい場所で暮らすというのが大変です。研修体験をして地域を知っていただろうかと思っただけです。そういう研修の仲介役をしたいんです。夏に大学の先生と話しながら考

えて、企画を出す予定だったんですけど延びていて(笑)。

自分も同世代の人がもつといてほしいと思いますし、そういうことをして楽しみたいと思っています。

平林 考えてることが違いますね。

宮崎 そういう意味で僕はもうしばらく「いきいき」で働いて、入所施設体験実習の案内役をしようかな。実習生などいろいろな人がやって来て、第三者の目があったらだいぶ風通しがよくなるのかなという思いもあります。



佐々木

佐々木 私がこれからやっていきたいことというか、

気になっていいることは家族の啓発です。私はずっと障害者福祉にかかわっています。7歳、5歳の子どもは私の仕事をせんべい屋さんだと思ってるんです。

近所に障害のある子がおられるわけでもないし、関わる機会がないんです。

平林 与謝野町では「つむぎ」が市場小学校と交流していますね。法人としても教育との連携を強めようとしていると聞いています。

佐々木 伝え方が難しいとは思いますが、まず子どもに伝えていきます。

平林 僕は現場が大切ということをしごく思います。そしてそれと同じくらい運動の大切さというのが

最近になって良く分かってきました。支える会、家族会のつながりの大切さとか。また僕は法人の福利厚生部会長として年末に職員大懇親会を行いました。最初は「仕事が多忙」「それどころじゃない」等が集まりが悪かったのですが、何度呼びかけて最終的には54名の参加がありました。京都府共済会のバレーボール大会にも今年は14年ぶりに参加して29チーム中8位入賞という成果を収めることができました。僕はバレーボール経験がまったくなかったのですがバレーボール好きな方と本当に楽しく親睦を深めることができました。福利厚生部の活動を通じて法人を元気にしたい、職員が一致団結していきたいなと思っています。

今回は20代、30代の職員の仕事、家族、地域に対する思いを聞いてみました。いろいろ悩みながらも、それを糧として一歩一歩着実に歩んでいる様子がおわかりいただけたのではないのでしょうか。今年は亥年、よさのうみ福祉会のこれからを担う若手職員がやりがいを持ってさらに前進していく一年にしたいものです。

デイスカバー農産漁村(むら)の宝

リフレかやの里
管理者 藤原さゆり

内閣官房及び農林水産省が全国各地で地域の活性化に取り組んでいる優良事例を選定する「デイスカバー農産漁村(むら)の宝」に与謝地域山村活性化協議会が選ばれ、2018年11月22日に首相官邸で行われた授与式に、リフレかやの里から管理者が協議会の一員として出席させていただきました。

授与式では、全国1015か所の応募の中から選ばれた32か所の地域・団体の方々と共に選考委員会委員長から伊藤公博会長が賞状を授与されました。その後の交流会では、各テーブルを安倍総理大臣が回られ、それぞれと歓談、記念撮影をされました。リフレかやの里で製造した



左から伊藤会長、安倍総理、藤原管理者
川農林水産大臣、片山内閣特命

担当大臣も出席され、みなさんにもジュースの試飲をしていただき、取り組みの説明をおこないました。交流会では、グランプリ1つと5つの特別賞の発表もありました。

グランプリは、地元食材の6次産業化を通じて雇用機会の拡大に取り組む優良事例でした。

特別賞は、①インバウンドに対応した農産漁村滞在型旅行(農泊)に取り組んでいる優良事例「フレンドシップ賞」、②捕獲鳥獣を地域の資源として有効活用(ジビエ)に取り組んでいる優良事例「ジビエグルメ賞」、③農林水産物やその加工品の輸出に取り組んでいる優良事例「チャレンジャー賞」、④女性や高齢者、障がい者の活躍がその活動の大きな原動力となっている優良事例「アクティブ賞」、⑤斬新な発想に基づき6次産業の推進に取り組んでいる優良事例「プロデュース賞」の5つです。

残念ながら、与謝地域山村活性化協議会は賞を逃しましたが、グランプリと5つの賞に選ばれた事例は、取り組みの内容が素晴らしいことに加え、経済効果が大きいことが特徴でした。

この表彰を契機に、更に地域と連携して利用者の仕事づくりと与謝野町の農業振興に貢献して行きたいと思っています。



全国32か所の優良事例の皆さんと記念写真

ワークセンター花音 5周年記念式典

「おかげさまで5周年」

ワークセンター花音

管理者 山下 美佐子



やすらの里
が誕生したの
は2013年
3月。ワーク
センター花音
もその一角で
現在5年を越
えた歩みを続
けた。

けています。開設までの準備期間を含め、その後も与謝郡福祉会「やすら苑」、福祉応援団「やすらの旋風」、訪問看護ステーション「みのり」と花音の4事業所が常に対話し協力しながら、地域のみなさまに助けていただいたおかげでこの日を迎えることができました。

そのお礼をこめて「おかげさまで5周年」と銘打ち10月20日に祝う集いを開催しました。当日はやすらの里のテラスに舞台をしつらえ、与謝野町長、福祉課長、区長にも来ていただき祝辞を頂戴しました。

各事業所の利用者からのことばもあり、花音からは開所当初より通所されている中上清吾さんが代表で5年間の思いを発表されました。発表をお願いすると快く引き受け、家で原稿をワープロでまとめて来られました。当日は少し緊張気味で

したが、雪の日も自転車で通所してきたこと、自分の病気との闘いであること、トイレ清掃に対する真面目な思いなどをしっかりと発表されました。

特養のやすら苑の入居者のほのぼのとしたインタビュや福祉応援団の入居者のお礼のことばも感動的で、他法人の利用者と触れ合える貴重な機会となりました。

出しものとして「岩屋踊り保存会」のみなさんの楽しい踊りを楽しみ、「茉莉花」のみなさんの二胡演奏に合わせて合唱し、楽しく過ごすごとができました。

花音では喫茶と共にやすらの里を運営している他法人からの委託を受けた清掃作業、給食下ごしらえ作業を続けています。この5年間で就職した方が3名あります。現在の利用者は20名で就職をめざす方、今の生活リズムを保って働きたい方といういろいろですが、みなさんの希望をかなえられるよう夢を持てるように職員一丸となつて支援していきたいと思っています。



山添町長からの祝辞

「楽しかった外出取り組み」 作業だけでなく、たまにはゆるゆるださ

峰山共同作業所

主任 引野 充朗



次の取り組みを楽しみに小物づくりなどがんばっています

縫製班は日々体調に合わせながら作業をがんばっています。普段は自身の障害や生活の場の問題もあり、休日や余暇の時間にゆつくりと出かけることが難しい仲間が多く在籍しています。「作業だけじゃなく、たまには班でどこか出かけたいね」と、作業中にある仲間から話が出ました。他の仲間からも「コーヒを飲んでゆつくりしたい」「買い物に行きたい」など話が盛り上がり、班独自でお出かけをしよう！ということになりました。

「少人数でほろろり」

さっそく班で話し合い、11月7日にマクドナルドでの飲食と、ナフコ、ゴダイへ買い物に行くことになりました。マクドナルドに行くのは初めてという仲間もおられ、一人ずつメニューとにらめっこしながら、緊張しつつ店員さんとやりとりをして自分の好きなものを注文する経験もできました。「何年ぶりかな」コーラ飲んだのは、こんなにおいしかったかな」と嬉しそうに話される姿もあり、気の合う仲間とゆつくり味わうコーラの味は格別だったようです。その後はそれぞれ買い物も楽しめました。帰り道では「次はお昼ご飯を食べに行きたいな」など次回のお出かけを楽しみにする声も聞かれ、今回外出の取り組みができて本当に良かったと思えました。これからも仲間の思いに添った取り組みができるようにしていきたいです。



『親のこころ』

日々の生活

息子が発病してから8年。今では車椅子から補助具を足につけて一人で歩けるようになって3年過ぎました。それまでは車椅子を坂道で押し上げたり降りたり、家の中ではトイレや自分の部屋に行くにも段差があつて手助けがいりました。正直、急なスロープを上がる時体力が限界かなと思うこともありました。そこに行きつくまでにたくさんの方にお世話になって今があります。

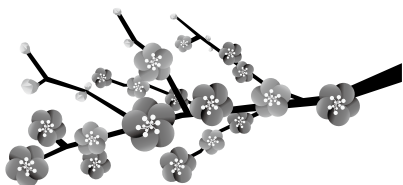
息子は毎朝目を覚ますとベッドの上でリハビリを30分以上しています。親が言った訳ではなく、少しでも体の筋肉が硬くならないように続けている様です。真面目な性格が少しずつの努力に繋がっているのかな、と思うところです。

わたしたち親は、日々の生活でどうすれば少しは楽に過

すまいる 利用者の母

ごせるか考え、「マヒの腕が痛い、重い」といえば、「腕を吊るす物を作ろう。夏はむれないう布で、冬はキルトで」と作ってやり、「寝ていると腰が痛い」といえば、頭の方を少し高く緩やかな傾斜をつけてみる。

少しの工夫で楽になって痛みも取れた様子。親子喧嘩をしても父親が黙って手助けをすると「ありがとう」と言葉がかえってきます。父親は「腹が立っていても」ありがとう「を聞くと手を貸さない訳にはいかん」と笑っています。



宮津・新設グループホーム竣工に向けて

ホームすみれ
主任 濃野 暁生

新春を迎え、一層寒さが肌に染みる季節となりました。そんな中、宮津市惣のグループホーム「ホームすみれ」では、俄かに熱気を帯びた活動が進んでいます。

第105号(2018年9月1日)、第106号(2018年11月1日)でお知らせしましたとおり、宮津の地に、2つのグループホームを統合して新たな暮らしの場(ホーム)が誕生します。宮津で生活しながら作業所に通うことを希望される利用者さんにとつて待ちに待ったこの時がやってきているのです。

9月に地鎮祭を執りおこない、その後、基礎工事に入り、11月27日には棟上げが始まりました。12月初頭、無事、棟上げを終えて12月5日の上棟式を利用者さん含め関係各位で迎えることができました。

この度の新ホーム建設には、資金づくりの面で多方面に渡り多くの温かいご支援をいただいております。ご協力下さいました皆様には心から感謝申し上げます。まだまだこれから感謝申し上げます。またまだこれから自己資金づくりとして、宮津・伊根地域の作業所を支える会と連携しながら皆様へのご協力をお願いしていきたいと思っております。

また、京都府産の木材を使用する「公募型木のまちづくり推進事業」を採用し、京都府の補助金も活用させていただいております。各居室と入居者の皆さんが憩うリビングの床材に温もりの感じられる無垢の京都の木が使用されます。

少しずつ目に見える形で願いが叶えられつつあります。今後もこの「福祉よさのうみ」を通じて皆様に新ホームの完成、また暮らしの様子をお伝えさせていただきます。



願いが形になっていきます

福祉に携わる一人として…

早いもので、こまちで勤めて7年目に入りました。今回このような機会をいただいたことに感謝したいと思います。ありがとうございます。

現在のこまちでの仕事は、相談者の人生に関わる、本当に大変な役割だと思い働いています。お陰さまでとても充実しています。

また、福祉会に入職した時に、「るむ」で

実習を2週間しましたが、毎日刺激があり、良い経験ができ、とても楽しかったことを思い出します。

私が福祉をやってみ

たいと思ったきっかけは、N

PO職員として働いていた公園で、障害のある方に体験プログラムをしてもらったことがきっかけです。その時に感じた達成感、これまでの、子ども対応とは違ったこと、を今でもはっきり覚えています。公園を退職する時に、次に何がやりたいかと考えた時、迷わず障害者と関わりた

リレー随想



障害者就業・生活支援センター

相談員 野村 和弘

す。当たり前前を、

当たり前前を、

当たり前前を、

当たり前前を、

当たり前前を、

当たり前前を、

当たり前前を、

当たり前前を、

当たり前前を、

当たり前前を、

当たり前前を、

当たり前前を、

もしねないと感じていま

今までに福祉の経験は全くありませんでしたが、一人の人として真っ直ぐに向き合えば大丈夫だと信じてやってきました。7年目を迎えて、年々忙しさが増していますが、支援について悩む時、しんどい思いをすることこそ福祉に携わることなのか

これからも、相談者の気持ちを持ち大切に、支援の共有と喜びの共有をしながら、一人でも多くの笑顔が見られるように頑張っていきたいと思っています。

次回は

支援センター るむ

主任 河邊 晴美です。

京都北部6福祉会主催
施設見学

夢織りの郷 いきいき
支援員 和田 衣里

2018年11月12日、6福祉会の施設見学があり、19名の参加がありました。施設見学先は京都市左京区の「社会福祉法人修光学園」で、重度の障害がある方も社会参加できるようにと作られた施設です。今回は3カ所の事業所を見学させていただきました。

「修光学園」では、クラフト作業と陶芸作業を見学しました。クラフト作業では紙ちぎりや刺し子などの様子を見学しました。陶芸作業は週に2回陶芸の先生が教えに來られます。この日も先生が來られ温かみのあるマグカップやお皿などを作っておられました。

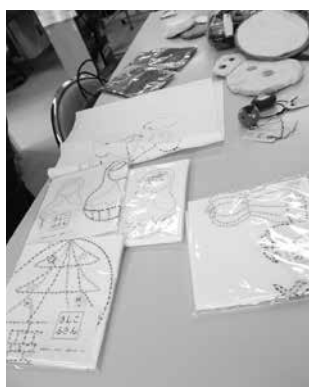
次に「飛鳥井ワークセンター」です。ここは1階がスーパードで2階と3階が施設となっています。スーパードで販売している青果を袋詰めする下請け作業や、パンを製造しスーパードに併設しているパン屋で販売もされていました。下請け作業で経験を積みスーパードに就職した方もおられます。調理配食を作業としている利用者もおられ、指示書1枚を見て自分が何をすべきなのか考え行動されていることに驚きました。

最後に「ワークセンターHalle」です。こちらは洒落なお店で、洋菓子の製造と販売、土産用の箱折り作業をされています。洋菓子は京都にこだわった商品を作り販売されていました。

今回の施設見学では、利用者がそれぞれ自分に合った仕事をし、意欲的にされている姿が印象的でした。私もこれから利用者の作業に対する気持ちを引き出しながら本人にあった作業を開拓していきたいと思いました。



おしゃれなケーキ屋さん



すごいですね！

みねやま作業所

バーベキュー大会 in 天女の里

支援員 市田 博也

みねやま作業所くるみ会主催でバーベキュー大会をおこないました。毎年作業所の玄関前でおこなっていましたが、仲間から「今年はどこか違うところでやりたいね!」との声があり、「海?山?キャンプ場?」と色々な意見の中から、自然を楽しめる天女の里に決定!!当日はドキドキワクワクした仲間の表情、みんなの美味しい・楽しい・笑った表情がたくさん見られ、良い取り組みでした。

来年はどこを攻めようかな?(笑)

ゆうゆう作業所

バーベキュー大会
親御さんとの交流でもりあがった一日

支援員 近藤 美香

親の会・かもめ会合同でバーベキュー大会を開催しました。親の会と合同の取り組みということで、親御さんにも、今回、親の会と合同の準備からおにぎり作りなどご協同・職員と一緒にコンロの準備からおにぎり作りなどご協力いただきました。バーベキューの後には、みなさんおまちかねのビンゴゲーム!!! 豪華な景品もあり、楽しい一日を過ごしました。

峰山共同作業所

2年ぶりのBBQ!!
とってもハッピーな一日

管理者 山口高志

峰山共同作業所では「秋」を満喫しようと野外活動が企画されます。秋と言えば「食欲の秋」。毎年「おいしいお肉が食べたい!」と仲間の自治会を中心に、BBQが企画されます。しかし、一昨年、昨年と雨のため中止。いつもより豪華な給食を食し、という寂しい行事になっていました。今年は何とでもBBQをするぞ!と予備日も設定。みんなの願いが天まで届き、当日は見事なまでの秋空の下、BBQを楽しむ事ができました。

支援センターろむ

笑顔いっぱいバーベキュー

支援員 三宅 由希也

今年で2回目になるいちご会バーベキュー大会を10月26日におこないました。準備の主役はいちご会役員。炭・紙皿・フランクフルトの購入や当日の会場設営・火起こし食材運びを頑張ってくれました。役員以外の仲間も、軍手をつけ、うちわで仰ぎやる気満々。青空の下、いい匂いがろむ全体に広がり食べておいしいと自然に笑顔に。みんなで食欲の秋を満喫したバーベキュー大会でした。

編集後記

新年あけましておめでとうございませう。平成最後のお正月・「みなさん、いかがお過ごしでしょうか?今月号の広報誌「福祉よさのうみ」の表紙は、夢織りの郷つむぎのわかば班の元気なななたちです。ななまが持っているかわいい羽子板は題して「亥亥ね!羽子板!」。昨年与謝野町文化祭に展示を目標に取り組んで作った作品です。完成後、展示することができその後、岩屋区民文化祭、与謝野町障害者週間の取り組みにて加悦庁舎玄関ロビーにも展示することとなり、多くの人たちに見ていただくことができました。

そしてこの表紙にも載せていただくことができました!表紙に掲載するにあたり各家庭に連絡を入れたところ、大変驚かれながらも「ぜひ、載せてください!」「えっ、広報ですか?すごい!」等、どの家庭からも嬉しさが伝わる快い返事をいただきました。写真を撮るにも気合が入ります。みんなのこの表情から元気なパワーもらいそうだと思いませんか?「無病息災!みなさまが病気に健康で過ごせますように:今年もよろしくお願い致します。(な)」

